

さびあインタビュー

目標は「生徒の夢」の実現。
心力、学力、体力を伸ばし
将来への高い志を育む

江戸川学園取手中・高等学校

校長 竹澤 賢司

江戸川学園取手中・高等学校

目標は「生徒の夢」の実現。 心力、学力、体力を伸ばし 将来への高い志を育む

2014年に小学校が開校し、茨城県内初の小中高12カ年一貫教育校となった江戸川学園取手。1978年に高等学校が創立されて以来、「心豊かなリーダーの育成」を教育理念に掲げ、国際社会に貢献できる人材の育成に取り組んできました。2016年度から中等部が「東大ジュニア」「医科ジュニア」「難関大ジュニア」の3コース制となり、同じ志を持つ仲間と共に学ぶことで早くも教育効果を見せ始めています。同校の教育方針、教育内容について、校長の竹澤賢司先生に伺いました。

学びのモチベーションを高める 東大・医科・難関大の3コース制

神田 初めに学園の沿革についてご紹介いただけますか。

竹澤 本校の母体は1931（昭和6）年に創立された城東高等家政女学校現・江戸川女子中学校・高等学校です。その50周年記念事業として新しい共学の進学校を開校することになり、1978年に江戸川学園取手高等学校が開校しました。共学校として文武両道を重んじ、

聞き手



サピックス小学部
教務部
中野 英樹



サピックス
教育情報センター所長
神田 正樹



江戸川学園取手中・高等学校 校長 竹澤 賢司 先生

INTERVIEW

当初は生徒たちに自信をつけさせるため部活動、特に野球に力を入れ、その結果、開校3年目に甲子園に行くことができました。文武両道の「文」については、勉強合宿などをして力をつけ、開校7年目に東大合格者を出しました。それ以来、毎年合格者を出し、多い年は20名ほどが合格しています。

中学が開校したのは1987年で、中高一貫教育がスタートしてさらに進学態勢に勢いが出てきました。その後、医学部志望者が増えてきたため、1993年度に高校に医科コースを設置。また、2016年度から中学でも東大ジュニア、医科ジュニア、難関大ジュニアの3コース制をスタートさせています。

教育方針は「規律ある進学校」であり、教育理念は「心豊かなリーダーの育成」です。ことば遣いにしてもマナーにしても、心が豊かな中高時代に身につけておかなければ、社会に出たときに困ります。また、人格・人柄が優れていなければ世

界では通用しません。心力と学力と体力のバランスの取れた三位一体の教育が大切なのです。そして校訓は「誠実・謙虚・努力」。ひと言でいえば、開校当初から人間教育、心の教育に力を入れてきた学校だということです。勉強もその一環と考えています。

神田 中等部でコース制を設けたのはどのような理由からですか。

竹澤 勉強は独りでもできますが、みんなと一緒にやることによって深みが増し、先を見通すこともできます。コース制はその点でも効果があります。単に、医師になりたい、東大に入りたい、といったことのためにコースを設けたわけでは

ありません。子どもたちに内在している適性を目覚めさせたいのです。中等部の3年間はコースを移動してもいいので、本当の自分に合う時代にしてほしいと思っています。4月に2年生になる開設初年度の生徒たちはずいぶん伸びています。先日、2020年に打ち上げ予定であるJAXA（宇宙航空研究開発機構）のH3ロケットのプロジェクトマネージャーの岡田匡史氏に講演をしていただきましたが、1年生がよく手を挙げて質問をしていました。意欲的で反応が良く、これまでとは違います。

コース制を敷いて生徒の内面的なものを掘り起こし、モチベーションを上げていく。その先に見つめているのは大学進学だけではなく、30歳、40歳になったときのグローバル社会のイメージを持つってもらうために、いろいろな試みを行っています。



Profile

江戸川学園取手中・高等学校

所在地：〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1
JR常磐線「取手」駅より徒歩25分・バス5分、
関東鉄道常総線「寺原」駅より徒歩25分、つば
エクスプレス「守谷」駅よりスクールバス20分
TEL：0297-74-8771
URL：http://www.e-t.ed.jp/

医科講話、病院見学などを通して 医療の現実を知る医科コース

中野 中等部から高等部に進むとき、高校の医科コースに進むには学内で一定の基準があるのでしょいか。

竹澤 医科コースに進むには医師としての人間性が大事になってきます。チーム医療としてのリーダー性やコミュニケーション力も必要ですから、その意味で人間力が問われます。ですから、必ず校長面接を行います。これに成績と本人の意欲、保護者の意向なども加味して決定します。

中学の医科ジュニアコースでもいろいろな病院に連れていきます。たとえば、「もう一度入院したくなる病院」で知られる千葉県鴨川市の亀田総合病院に見学に行くと、最上階に霊安室があります。天国にいちばん近いところにあるわけです。各施設を見ても、暗い雰囲気がなく、ホテルのようなすばらしい病院です。そういう一流の病院に連れて行くと生徒のモチベーションが上がるうえ、医師はどうあるべきかを考えさせることにもつながります。高校の医科コースの生徒には「二日医師体験」を行っているほか、老人介護施設にボランティアに行く機会を何度も設けています。介護施設では最初はコミュニケーションがうまく取れませんが、

信頼がなければ心の教育はできない。
目に見えないところにたくさんの
価値があることを知ってほしい。



心を鍛える校長講話と道徳 主体性を育む課外授業と朝学習

神田 心の教育を行ううえで重要な授業の一つが道徳ですね。

竹澤 道徳の授業は中1と高校から入学した高1に対して行っています。本校では、早くから多くの教科でアクティブ・ラーニングを取り入れています。道徳も例外ではありません。70分の授業のなかで、30分はその回のテーマについての講話を行い、残りの時間はディスカッションとプレゼンテーションに充てています。生徒は道徳の授業の後、家で自分の感想をノートに1ページ分書いて提出し、教師はそのノートに1ページ分のコメントを書いて返します。教師は大変



上／オーデトリウムの大ホール。コンサートや講演会などさまざまなイベントで利用されています
下／二つのグラウンドをはじめ、体育館、武道場、テニスコートなど施設が充実。部活動も活発です

ですが、これによって子どもたちの信頼関係を築くことができます。まさに心のキャッチボールです。信頼がなければ心の教育はできません。

道徳は、最終的に行動に移すことができて初めて身についたといえます。それは卒業生が証明しています。就職したら絶対に遅刻をしない、責任感を持って仕事をやる。そうしていると周りから自然に押し上げられます。最初からリーダーになろうなんておこがましい話です。そのことを中学時代に道徳の授業やいろいろな行事を通じて体感し、目に見えないところにたくさん価値があることを知るといのが本校の心の教育の流儀です。

神田 中1生には校長講話も行っているそうですね。2016年度はリーダー性のお話のなかで「克己復礼」ということばについてお話をされていましたね。

が、少しずつできるようになります。そうやって生徒は、人生の先輩である高齢の方と話をすることで視野を広げ、いろいろなことを学んで帰ってきます。

神田 現役の医師による医科講話もありますね。これも医療現場の実際、医師の厳しさを知る貴重な機会になると思います。厳しさを知ったうえで、それでもがんばりたいと思えば、強いモチベーションで医学部を受験できますね。

竹澤 昨年は毎月実施している医科講話以外に、産婦人科の先生にも再生医療のお話をいただきました。もともとは法学部を出た先生なので見識も広く、臍帯の中の血清を大事に使っていかなくてはならないといった話をされていました。帝王切開による出産の動画を見せ、嫌なものに目をつぶってはいけない、しっかりと現実を見ることが大事だということが生徒たちにも伝わったと思います。

神田 そうしたきめ細かい教育の成果だと思えますが、2016年春の大学合格実績もすばらしく、国公私立を合わせて56名が医学部医学科に合格していますね。**竹澤** 多い年は100名くらい合格しています。高校に医科コースを立ち上げてから23年になりますが、医学部への進学者は合計1200名を超えました。

グローバル教育もイベント教育も 根底にあるのは人間力と夢の育成

神田 首都圏でもいち早くグローバル教育に取り組んでこられた学校の一つだと

竹澤 「克己復礼」は論語に出てくることばで、非常に重要なことばだと思います。「己の欲望や私情に打ち克つて礼儀や規範にかなった行いを実行する」。それができる人でなければ一流にはなれません。おごっているのはだめ、自分に負けていてはだめなのです。論語のことは、漢文の授業のときだけでなく、いろいろな機会を通して教えていく必要があると考えています。

中野 朝学習と放課後の課外授業にも特色がありますね。課外授業は、中等部では苦手科目をつくらないためにフォローし、高等部では逆に得意科目をより伸ばし、高等教育に向けての力をつけるために行うと伺いました。

竹澤 朝学習も課外授業も自主性・主体性を育てるのが狙いです。課外授業は希望者対象に行われる演習授業で、自分で受けたい授業を選びます。部活動も奨励しており、課外授業に参加するから部活ができないというシステムではありません。課外授業に出る日、部活に出る日、あるいは課外授業が終わってから部活に行く日など、組み合わせを自分で考えることが大事です。そこから主体性が生まれます。限られた時間を利用してより深みのある勉強をするにはどうしたらいいのか、それを自分たちで考えるので効率が上がると生徒たちも言っています。

朝学習も強制ではなく自主的なものです。ホームルームが始まるのは8時半ですが、7時ごろに登校して勉強する生徒がたくさんいます。「自習」ではなく「自修」なのです。自分で学んで修めること

생각합니다。グローバル教育についての理念をお聞かせください。

竹澤 大切なのは「心のバリアフリー」です。まずは海外に行つて、心のバリアを取らなくてはなりません。高2になるとカナダ修学旅行があり、現地の高校生と交流をしますが、最初は「お客さん」として扱われていました。しかし、最近ではウェルカムパーティーのときも本校の生徒がいろいろなものを披露したり、スピーチを行ったりします。そうすることによって打ち解けて対等な立場に立っています。中3と高1の希望者を対象とした、オーストラリア短期留学制度も充実しています。

神田 アメリカの大学を見学するアカデミックツアーもありますね。これは海外のトップ大学に進学する大きなモチベーションになりますね。

竹澤 アカデミックツアーではハーバード大学やマサチューセッツ工科大学を見学するほか、ニューヨークの国連本部にも行きます。見学するだけでなく、そこで研究している本校卒業生や働いている日本人の方の話を聞きます。先輩たちが世界の中心地で活躍している姿を見せることは、大きな意味があります。

中野 先ほどJAXAの方の講演のお話がありました。著名な方を招いての講演会や演奏会なども将来の夢を見つけていくうえで大事ですね。

竹澤 視野を広げるために、各界で活躍されている一流の方をお呼びしています。一流の方は本当に努力をしています。先日は、女優でエッセイストの檀ふみさん



をお呼びして朗読劇を見せていただきましたが、檀さんは13時30分の開演なのに10時にお見えになり、ぎりぎりまでリハーサルをされていました。朗読劇もすばらしいもので、生徒たちは引き込まれ、ホールが一体になりました。みんなと一

緒に見たり、体験したりすることにより気持ちが入り、議論も盛り上がります。そこが学校教育のすばらしさです。

中野 1年間、忙しすぎるくらいスケジュールが用意されています。人間力を鍛えていくためのプログラムが形を変えてめじろ押しですね。

竹澤 生徒は飽きないと思いますよ。学校はわくわく感が持てるところでなければなりません。

中野 進路指導ではどのようなところに重点を置いていますか。

竹澤 大学に合格することが目的ではなく、大学の先の将来の自分を見据えて進路を考えること、それが基本です。高2から理系と文系に分かれますが、どんな方向に進もうとしっかりした学力をつけていくことが第一です。そして、主体的に自分の人生を考えていくことが大事です。生徒の夢が学校の目標です。学校は生徒の夢を育てる場でなくてはなりません。本校では毎年12月に「夢を語る会」を開いています。各学年の代表が全校生徒の前で自分の夢をプレゼンするものです。その後で卒業生が、中高時代の歩み、今の仕事の話、これからめざす方向などの夢を語ってくれます。新年を迎えようという時期にそれを聞いて、自分自身の夢をより具体化させていくわけですね。

チャレンジする機会を常に用意 努力する人に報いるシステム

神田 中学入試について伺いたいです

が、スライド合格というのはどのような制度ですか。

竹澤 難関大ジュニアコースは得点率6割が合格ラインの目安です。東大ジュニアと医科ジュニアは7割、特待生は8割です。スライド合格は東大ジュニアや医科ジュニアへの入学を希望しながら、その合格点に達しなかった場合も、難関ジュニアの合格点に達していれば、難関ジュニアへの入学を認めるという制度です。

また、入試では緊張して1回の入試では力が出せない受験生も少なくありません。2回、3回と受ければ雰囲気慣れ、本来の力を発揮できます。そこで、第1回の入試で難関大ジュニアに合格すれば、その権利を持ったまま第2回、第3回の入試で東大ジュニアや医科ジュニアに再チャレンジできるようにしています。それで受かる受験生もいます。そのくらいの根性を持つてほしいと思います。チャンスはつかむものです。それを中学受験で体験するとすばらしい宝になりますから、もし第1回の結果に満足できなかったら、ぜひ再チャレンジを、場合によっては再々チャレンジもしてほしいですね。

努力した人には報いたいというのが本校の考えです。難関大ジュニアに入っても、入学後の努力で東大や医科に上がるチャンスもあります。わたしは今の1年生が入学したときに「みんなががんばれば、進級するときに医科、東大を2クラスにする」と言いました。今は1クラスずつですが、生徒たちを見ていると、レベルを落とさずに東大と医科を増やすことができるという感触が十分あります。

神田 最後に、貴校をめざす受験生にメッセージをお願いします。

竹澤 中学受験はその後の人生に向けての大きな一歩になります。大切なのは自分で選んで受けることです。親任せにせず、一緒に学校を訪ね、自分で感じたことを大事にしてください。環境は人をつくりまします。本校には豊かな自然環境、生徒同士がお互いに切磋琢磨する人的環境、それを伸ばそうとする教師集団、その三位一体の環境がそろっています。

説明会では2016年度から在校生にプレゼンをさせています。弦楽同好会の演奏に乗せて、スクリーンにこんな受験生へのメッセージが流されました。「受験生は今がいちばんつらいときでしょう、くじけないで自信を持ってください、自信が受験を乗り切る大きな力を与えてくれますよ」と。そんな在校生たちの姿を見てほしいですね。そして夢、大志を抱いて入ってきてください。志が人を育てます。

中野 いろいろな刺激がある時期だけに、易きに流れてしまいがちな中高時代ですが、貴校ではさまざまな仕掛けのなかで刺激を与えながら、それぞれが志を持てるように導いていращしゃるのはすばらしいことです。

竹澤 私学の教育はそこに魂があるかどうかが問われます。人づくりを根底に置いてそれぞれの学校が切磋琢磨していかなくてはならないと思います。

神田 先生方がどのような思いで日々の教育をなさっているのかがしっかり伝わったと思います。ありがとうございました。

母校を語る



かめやま ひな さん
亀山 雛子さん

秋田大学医学部医学科3年(4月から)
(江戸川学園取手高等学校2015年3月卒)

現在も大学で陸上競技を続けており、2015年、2016年と、東日本医科学学生総合体育大会において、女子100mで連覇することができました。学業では、今は基礎研究に興味があります

勉強も部活もベストを尽くした中高時代 限られた時間のなかで、何をすべきかを学びました

レベルは高いが、サポートも手厚い

江戸取を志望校に選んだのは、七つ上の兄が通っていたことがきっかけです。兄はもとより、両親も学校への信頼が厚く、加えて、開業医の父の影響を受けて、医学の道を志していたわたしにとって、「医学部に強い学校」であることは大きな魅力でした。

キャンパスはとても広く、緑豊かな自然に囲まれて伸び伸びと過ごすことができます。一方で、規律を大切にしているので、校則は少し厳しいかもしれません。もっとも、求められるのは、ルールを守ること、きちんとあいさつをすることなど。おかげで、当たり前のことを当たり前に行えるようになり、この習慣は、大学の研修などでもとても役立っています。

学習指導は「授業がいちばん」をモットーに行われ、授業のレベルも高いように思います。サポート面もとても手厚く、どの教科の先生も、生徒一人ひとりの指導に時間をかけ、相談すれば親身になって応えてくださいました。当時はそれが当然のように思っていたのですが、大学で友だちと出身校の話をしていると、江戸取の教育がいかにすばらしかったかがわかります。

また、わたしが進んだ医科コースでは、補講や講習が充実しているだけではなく、講演会や課外授業などのプログラムも豊富に用意されています。実際の病院に足を運ぶ「一日医師体験」では、医療器具の扱いを学んだり、患者さんと触れ合ったりすることができ、医療の現場で働くということを、肌で感じることができました。

医科コースの団結力を発揮できた体育祭

学校生活で特に思い出深いのは、高3の体育祭です。江戸取の体育祭は、学年縦割りで赤・青・白・黄の4色のチームに分かれて競い合います。当日は、4色対抗の応援合戦も盛り上がりますが、わたしにとっていちばん

思い入れが深いのは、唯一のクラス対抗である「ロープジャンピング」という大縄跳びの競技です。この競技で医科コースが優勝することはめったにないのですが、わたしたちのクラスは、多忙な受験勉強のなかで時間を見つけて練習に励み、3分間に155回という当時の歴代最高記録で優勝することができたのです。このときは本当にうれしくて、みんなで抱き合って喜びました。医科コースは高1から3年間持ち上がりのクラスなので、それまでに培った団結力を発揮できたのかもしれない。

また、友だちに誘われて“なんとなく”入部した陸上部ですが、高2の秋に行われた「日本ジュニア・ユース陸上選手権」の女子100mでは、4位の成績を残すことができました。勉強と部活の両立は大変でしたが、時間がないからこそ、どちらも集中して全力で取り組むことができたのだと思います。



愛知県で行われた日本ジュニア・ユース陸上選手権の表彰式(4位)の写真です。先生方、家族の応援のおかげで、部活動も充実したものになりました

そして、「限られた時間のなかでやるべきことをやる」ということの大切さと、そのコツを学びました。こうして江戸取で得た多くの経験が、今の自分につながっていると感じます。

これから受験を迎える皆さんには、ぜひ部活には入ってほしいです。部活でしか得られないものはたくさんあります。もちろん勉強もおろそかにしてはいけません。中学に入学したら終わりではなく、将来の夢に向かって、きちんと勉強を続けてください。そして、充実した中高6年間を過ごしてください。

(サピックス小学部松戸校2009年卒業)

生徒の夢は、学校の目標

祝
創立
40
周年

江戸川学園取手中・高等学校

本校は、本年11月で創立40周年を迎えます。

中等部新体制躍動中!

東大ジュニアコース 30名

医科ジュニアコース 30名

難関大ジュニアコース 180名

創立40周年記念

体育祭 5/27(土)
8:30~16:00

紫峰祭 10/7(土)・8(日)
9:00~16:00

2018年度 入試説明会日程

オープンスクール 7/8(土)
(中高同時開催) 9:00~14:00

中等部 9/16(土)・10/21(土)

11/25(土) いずれも9:30~

高等部 10/14(土)・11/11(土)

12/2(土) いずれも9:30~

2018年度 入試日程

中等部入試

第1回 1/17(水)・第2回 1/25(木)

第3回 2/4(日)

高等部入試

アドミッション・一般入試 1/15(月)

一般入試 1/20(土)

江戸川学園取手中・高等学校

〒302-0025 茨城県取手市西1丁目37番1号 TEL.0297-74-8771(代) FAX.0297-73-4851 中等部専用0297-74-0111

常磐線・千代田線取手駅西口下車徒歩25分、バス(江戸川学園・中央タウン行き)で5分。 <http://www.e-t.ed.jp/>
つくばエクスプレス守谷駅スクールバス20分。